

# 2008年度 第1回 東大本番レベル模試

国語(理科) 採点基準

東進コメンツィン本部 教務部 国語科

《採点者の皆様へ》

- 1 誤りを容認する必要はありませんが、できる限り受験生の気持ちを汲み取った採点をお願いいたします。
- 2 採点にあたって、必ず各問題の全容を掌握しておいてください。

《表記上のルール》

全問共通のルールです。例外がある場合は、各問の基準で示しておりますので、そちらに従ってください。

枠内の二行書きや解答欄をはみ出したものは不可、0点とする。

解答欄外に書かれた内容は採点の対象外とする。

文章が途中で終わってしまっている解答は不可、0点。

誤字・脱字はきちんと見てください。一つにつき、1点減点とします。

送り仮名については、「現れる／現われる」「行つ／行なつ」のように表記の仕方が複数あるものに関しては許容とします。

同一文字の誤りについては、減点は初出の一回のみ。二回目以降は減点をせず、誤りのチェックだけ入れてください。

記述問題における文末の句点(。)(。のつけ忘れは、1点減点。

(ただし、古文・漢文の口語訳では句点がなくても不問、減点なし。)

マス目のある問題で、解答欄の最後のマスに文字と句点を同居させている場合は1点減点。

(小論文ではOKですが、国語の記述問題ではマス目を原稿用紙扱いにはしないため、これは字数オーバーになります。)

・ については、減点理由を簡単に書き添えてください(「句点なし」、「字数オーバー」など)。

文末表現の不備も、1点減点とします。

採点答案は、点数合計に間違いがないかどうかを、こちらでチェックいたします。  
部分点は、減点、加点がわかるように記入してください。

□(現代文)(文科)合計40点

- (一) 個人に対して一定のポジションへの同一化を命令する社会は、個性を失って交換可能な個人により構成される。 (A 1点) (B 1点) (C 1点)

ポジションが維持されて) or 存続して、その集合体) or ネットワークとして存続し続けるという (D 1点) (E 1点)

1点。

以上5ポイントで採点。Aは「ポジション」と繋縛も可。「個人あるいは「人」と「ポジション」との関係を示していることが必要。Bは「命令」というワードがあれば、基本的にはOK。Cは「個人の交替、生と死を超えて」という箇所をそのまま用いても、あるいはそれを個人を超えというようにまとめたものも、いずれも可。単に「交換可能」としたのも1点とする。(甘いが)D、Eについてはいずれも上記のような別解を認め、それ以外は点を与えない。モニター答案を見る限り、かなり出来が悪く、甘めに採点していくしかない印象を受けた。

- (二) 疲労の極みにおいて人は、命令という言葉行為によりポジションと同一化した自我の生とは異なる、遂行性からの脱落そのものである。 (A 1点) (B 1点)

行性からの脱落そのものである。 (C 1点) (D 2点)

以上4ポイントで採点。Aは「疲労」というワードがあれば原則可。Bは「ポジション」、「命令」の2ワードは必須。どちらを欠いても不可。「同一化」のよつな他の表現についてはなくても減点しない。C、Dは本文通りの表現であり、このままであることが望ましい。Dは「享受」というワードが望ましいもの、同内容を判断できれば減点しない。傍線部自体の対比が明確であるだけに、解答全体においての対比が不明瞭であれば、合計点から減点1とする。

- (三) 共同体は、死者のよつな自我から何者でもなく自己へと脱落していく者との関わりにおける、社会の命令に反した不可能性の共有において構成されていくことになり、 (A 1点) (B 2点) (C 1点)

命令に反した不可能性の共有において構成されていくことになり、 (D 1点)

以上の4ポイントで採点。Aは「死にゆく者」も可。Bは「自我から自己へと落ちていく」という内容を踏まえていればOK。Cは「社会の命令」は必須。「反した」という表現は、「従いなくなる」をそのまま用いても可。2ポイントがそろって1点。Dは「不可能」or「何もできない」と「共有」の2ポイントがそろって1点。「共有」は「伝達」も可。ただし、「共有」をAで用いた場合は、「」で用いられていなくてもOK。かなり採点しにくい問題なので、全体的な印象から得点調整をしてください。

- (四) 血の死を享受して自己を形成する社会は、社会の帰属原理たる交換性を帯びた自我への覚醒を拒否して、 (A 1点) (B 1点) (C 1点) (D 1点)

自己を形成する社会に亀裂を入れることだから。 (E 1点)

以上の5ポイントで採点。Aは「自己の享受としての死」という書き方も可。本当は「享受」は必須とした<sup>い</sup>。

がなくとも可とする。「誕生」であることには言及したのも可。Bは「帰属」というワードがあれば「原理」はなくてもよい。Cは「交換の能力」という表現を用いてもよいが「交換」がなければ不可。Eはほぼこの通りでなければ不可。これが全体のなかで一番の難問であり、低得点の解答が多数出ると思われる。

(五) ポジションに同一化した自我の持つ交換可能性のみを帰属原理とする社会にとって、自我から脱落して  
(A) 1点 (B) 2点 (C) 1点

自己完結的な自己の享受の要求は、システムの亀裂を招く必要不能なものだが、そういう交換不能で真  
(D) 2点 (E) 1点 (F) 1点 (G) 2点

個別的な自己が伝達されて共同体が構成されていくこと。  
(H) 1点

以上の8ポイントで採点。Aは「ポジション」が必須。「同一化」は「繫縛」も可。Bの「交換可能性」は「交換の能力」も可。いずれにしても「交換」というワードを押さえて1点。それを「社会の」「帰属の原理」と絡めて用いて1点。計2点。C「自我からの脱落」のみでも可。逆に「ポジション」から脱落「のような書き方をしたのも可」1点とする。この「自己完結的」という表現は本文不在だが、「誰の返答をも聞く耳をもたない」、「自己は誰かの返答を必要としているわけでもない」という表現を踏まえて簡約化したものである。「これを聞いたものも当然可。Dは中心ポイント。「自己の享受」がなければ本来不可だが、「自己」と「要求」あるいは「執着」、「叫び」といったワードが入っていれば1点は与える。Eはこれ以外は不可。Fはこの表現が望ましいが、「過剰」の置換がされていると判断されれば1点を与える。「過剰」をそのまま用いたものは不可。Gは「自己」の特徴としての「交換不能」か「個別的」に言及する必要がある。どちらかでOK。Hは「伝達」については「共有」も可。「共同体においては、人々が自我から自己へと落ちていくことが共有されるのである。何もできないことについてだが、何者でもないことについてが、伝達されていく」という箇所を踏まえたものと判断されれば1点。



- ・ごじもの理由があった・日頃の思いがあった
- 「口は心」と「心は口」のつながり方が文脈上不自然な場合はマイナス。
- ・普段の愛情があった・日常の愛情があった
- 「を」を完了の助動詞(った)として訳していない場合はマイナス。
- ・あ

よじ …… 「いよ・むね・やうじ」等ではおぼ

かのよじ・よひ・よひないとよとごじいよとよ・いとよひ

右に準ずる工夫がしてあればとずるが、それができていない場合はマイナス。

聞えなし給ふ …… 「聞え」が謙讓語本動詞、「給ふ」が尊敬語補助動詞として訳せられ、「なし」が「わねと

つごじ」等の意として訳せられてごせ

・やねと申上上げなねぬ。・つごじ申上上げなねぬ。

右の三語の内、よむかーよひでも正しく訳せられていない場合はマイナス。

(「一三語正しくなくつごじ」の箇所)の減点は「一三語」の誤が誤つ

・やねと申上上げなねぬ。・やねと聞上上げなねした。「聞え」の誤が誤つ

・やねと申上上げぬ。「給ふ」の誤が誤つ

・申上上げなねぬ。「なご」の誤が誤つ

文末表現は過去(った)になつても減点しない。

・やねと申上上げなねした。

文末の可点はなくとも減点しない。

### (1) H 【あ】

あぢぢ …… 「わけ・理由」の意で訳されてごせ

・何か訳が・何か理由が

右の意で訳されていなければマイナス。

・用事が・何が

何の理由であるかが(女官の家)男がいる(口は)の説明はなぐりやご。あつても減点は

が、内容が誤つている場合はマイナス。

・女官が気があつてごせ

あぢぢ …… 「ご」を推量(つ)の意で訳してごせ

・あゝのたごひや・あゝのたごひや・あゝのたごひはなごだごひか

右の意で訳されていなければマイナス。

・あゝのたごひはなごか

思つて …… 尊敬の意が訳せられてごせ

・思つてごひや・思つてごひや・思つてごひや・思つてごひや

右の意で訳されていなければマイナス1。

・思つて、

解答文末の読点はなくても減点しない。

解答文末の表現が正しくない場合はマイナス1。

・お思いになる

(11) 【5点】

何のために ……正解 ・ 大納言に見つからないようにするために・大納言から隠れるために

語尾が「ために」でなくても同意を表していれば

・大納言に見つからないように

「大納言」は「大将」でも

・大将に見つからないようにするために

大納言の車をやり過ぎすため、でも

・大将の車をやり過ぎすために・大将の車が通り過ぎるのを待つために

隠す大将が自分の姿でない、または、曖昧な場合はマイナス1。

・大納言から隠そうと

ほぼ同意を言っているが表現が正しくない場合はマイナス1。

・大将に見つからないために(正 大将に見つからないようにするために)

この項目がない、もしくは、正しくない場合はマイナス3。

・女宮に見つからないようにするために

何を ……正解

・牛車を・自分の車を・御車を・車を

この項目がない、もしくは、正しくない場合はマイナス1。

・体を

どつした ……正解 ・ 門の下へ隠した。・門の下に寄せた。・門に隠した。・門の下に置いた。

門が女宮の家であるとしてあつても

・齋宮の門の下に隠した。・女宮の家の門の下に隠した。

「門」が明らかでなくても、「女宮の家」であることが明確ならば

・女宮の家に停めた。

「どこに」が明確でない場合はマイナス1。

・隠した。

解答文末に句点がなくても、また文末表現は「こと」でも

この項目がない、もしくは、正しくない場合はマイナス2。

(三) 【例】

模範解答と採点区分

普段も / このまじりに / 大臣が通ってきてい / たのだらう。 / たいそう / 馬鹿らしい。

各項目がない、もしくは、正しくない場合は、「」内の点を減点する。

田口さま 「1」 普段も・普段から・いつも・日頃も

かかる 「1」 このまじりに

「かかる」の内容の補足「4」

大臣が通ってきていた・大臣が通っていた・大臣が来ていた・大臣が同じように通っていた  
人物が一般化されていても 他の男を家に入れることがあった

× 「このまじりであるのだらう。・誤解が生じているのだらう。・泊まらないうちはないのだらう。

けめ 「1」 たのだらう。

過去推量になっていなくても文意に合う推量表現であれば いるのだらう。あるのだらう。  
この項目の最後の句点は、読点でも減点しないが、句点も読点もない場合はマイナス1。

いと 「1」 たいそう・とても・たいへん

まじがまし 「2」

馬鹿らしい。・馬鹿げている。・馬鹿むじこいなど。

「馬鹿らしい」とはしているが、対象(女宮と関係を深めること)を誤っている場合はマイナス1。

女宮は馬鹿馬鹿しい人物だ。

× 腹立たしい。・はしたない。・出しゃばりだ。

三(漢文)(理科)=合計20点

(1) 明日町の西南の道を、驢に乗って通る婦人は、蝗の神だから

1点

2点

蝗の書を免れさせたいは、つじよ、哀願せよ、ウツリヤ、

5点

2点

2点

5点からの、a～dの要素の減点法。

a 「明日町の西南の道を」「……」「明日西南道上(じ)」「内容」(1点)

・明日西南の道を通る (「町の」「はなくても可」)

・明日沂の西南の道上に現れる (「上」が微妙だが可とする)

・明日西南から来る (やや微妙だが可とする)

・明日の西南で

・明日 (×「西南の道」の不足)

・西南の道を (×「明日」の不足)

b 「ろばに乗って通る婦人(じ)」「……」「婦の驢に跨る有り」「内容」(2点)

・ろばに乗った女性

・ろばにまたがった婦人

・ろばに乗った婦人に会った時

c 「蝗の書を免れさせたい」と「……」「哀願する具体的内容を補っているじ」。(2点)

・蝗の書から守るじ

・蝗をどうにかしてほしいと

・蝗を除いてくれと

・書を及ぼさないように (この要素があれば、この要素がなければマイナス1点)

・事情を説明して (×「具体性がない」)

d 「哀願せよ」「……」「ウツ」の内容。(2点)

・懇願する

・哀願しなさい

・あわれみを乞え

・お願いする

・助けを乞う

・頼の (マイナス1点「哀」のニュアンスがない)

e 文末表現 (「ウツ」)が不明。(1点)

(11)

b 蝗 f 柳 (各2点)

右記回答のみ

漢字のミスは マイナス1点

(三) まわになをかなむとす(一) 不問 2点

- ・將に何をかなむとす(一) × (漢字まじりは0点)
- ・まわになをかなむとす 1点 (文末に係り結びの「す」になっていないものは 1点「えん」)
- ・まわになをなむとす × (「な」を「ひはむ」)
- ・まわになをせむとす ×

(四) 私の治めしころは、むすひにむすひな土地を、むすひがむすひ

2点
2点
1点
5点

5点かひの a～dの要素の減点法。

a 「ちっほけな土地を」……「区」たる「治」の内容( 2点)

- ・小さな土地
- ・狭い土地
- ・ちっほけな領地
- ・ちっほけなお供え物ですが × (「ちっほけな」があつてこそ×)
- ・ちゅっとしたことです ×

b 「どつか…してください」……「幸はくは…命令形」で相手に対する願望の訳が必要。

- ・どつか…してくださいませとてちゅうか 「どつか」といふ表現はなくても可。(2点)
- ・おねがいですから…してください… 「おねがひ」のまま。マイナス1点
- ・…していただけませんか (説明問題ではない。マイナス1点)
- ・どつか…どつかとてどつか

c 「憐れんで」「……」「憫みて」「訳。(1点)

- ・あわれみをもつて
- ・あわれに思つて
- ・かわいそつだと思つて

d 「蝗の害から免れさせて」「……」「蝗口より脱せしむ」の凶容

使役の訳の有無は不問( ) 文意が通わばよい。( ) (2点)

- ・蝗の害から逃れさせて
- ・蝗を除いて
- ・蝗の害から守つて
- ・蝗の害から救つて
- ・蝗が穀物を食入ないやうにして
- ・蝗を穀物から遠くけて

(五) a 蝗の大群は、b 穀物は荒さず、c 柳の葉だけをすべて食べ尽くしていった。 4点

1点 2点 2点

4点からの、a、eの要素の減点法。

a 「蝗の大群は」……主語の明否、「大群」はなくても可。(1点)

- ・蝗の群れは
- ・蝗たちは
- ・蝗は

b 「穀物は荒らさず」「……」「禾田には落ちず」の内容。(2点)

- ・穀物は食わず
  - ・穀物ではなく
  - ・沂の穀物は荒さず
  - ・穀物を食べないかわりに
- ( ) 柳だけを食べ尽くして行った「なぜが下にもねば」

c 「柳の葉だけをすべて食べ尽くして行った」……「但だ柳樹に集まり、過ぐる処の柳葉都て食へ」の内容。(2点)

- ・代わりに柳の葉を食いつくした
  - ・柳の葉だけを食べ尽くしてしまった
  - ・柳の葉だけを食べて行って行った
  - ・柳の葉だけを食べたということ
- ( ) 食「のイミ」 マイナス1点  
( ) 食「のイミ」 マイナス1点